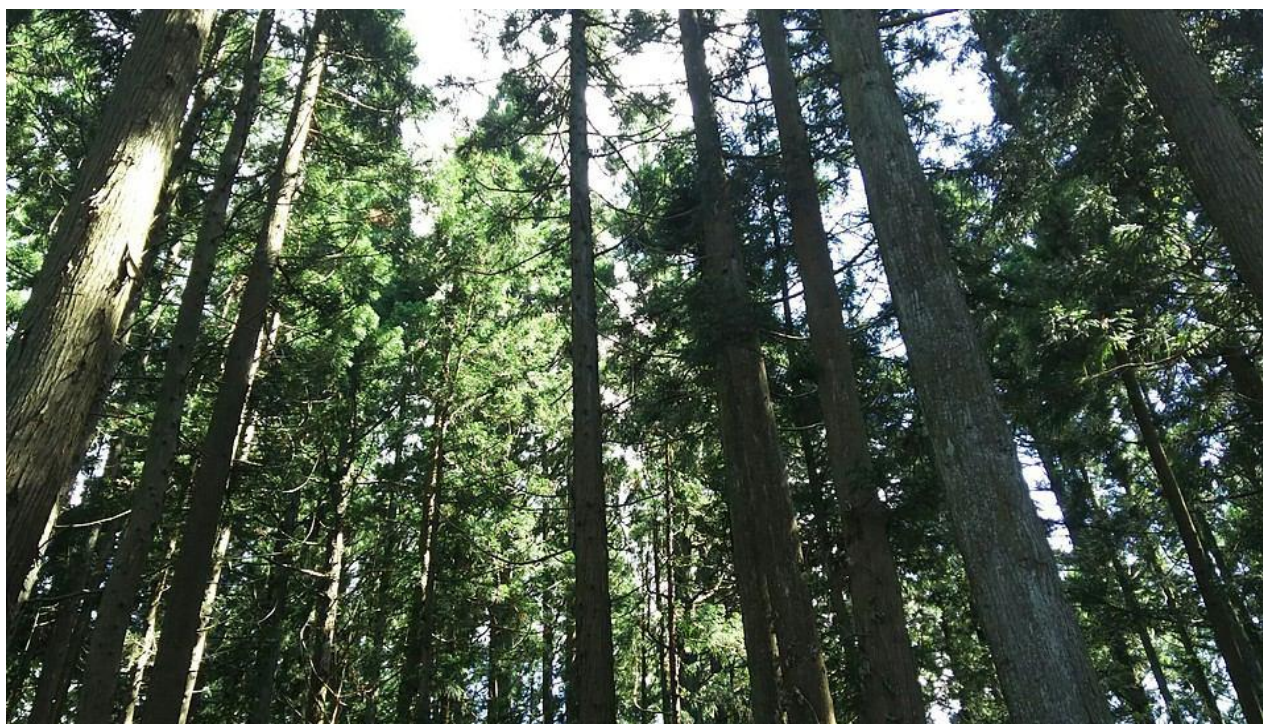


エイム電子株式会社

エコアクション21環境活動レポート

2015年10月 ~ 2016年9月



発行日2016年11月17日

～目次～

■組織の概要	1
■対象範囲、レポートの対象期間及び発行日	1
■環境方針	2
■環境目標	3
■環境活動計画	4
■環境目標の実績	5
■取組結果とその評価、次年度の取組内容	6
■環境関連法規制の遵守状況	7
■代表者による全体評価と見直し	7

AIM
AIM ELECTRONICS

1.組織の概要

1)事業所名及び代表者名

エイム電子株式会社 代表取締役 中山栄志

2)所在地

本 社 : 〒252-0327 神奈川県相模原市南区磯部1353
物流センター: 〒252-0336 神奈川県相模原市南区当麻1107-2

3)環境管理者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者: 経理部長 松島広晃
担 当 者 : EA21事務局 元木雪江
連 絡 先 : 電話 046-253-9881
FAX 046-253-7741

4)事業の活動内容

認証・登録対象活動

ネットワーク用、AV用ケーブル及び周辺機器の製造・輸入販売

5)事業の規模

活動規模	単 位	H25年度	H26年度	H27年度
売上	百万円	991	987	975
従業員	人	66.5	65.8	64.1
床面積	m ²	755	755	755

2.対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

1)認証・登録範囲

全組織、全活動、全従業員
本社及び物流センター(全社、全活動を含む)

2)レポートの対象期間及び発行日

期 間: 平成27年10月1日～平成28年9月30日

発行日: 平成28年11月17日

3.エイム電子環境方針

[理念]

当社は経営理念に「地球環境と社会に貢献する」を掲げ、地球環境問題への取り組みが企業経営における重要課題の一つであると認識し、地球環境に配慮した事業活動に積極的に取り組んで参ります。

[方針]

- 1)事業活動の全域で省エネルギー、廃棄物削減、節水の推進に努めます。
- 2)環境保全に配慮した製品の製造及び資材の購入に努めます。
- 3)環境マネジメントシステムの継続的な維持向上に努めます。
- 4)当社の活動に係わる環境関連法規、その他の要求事項を遵守します。
- 5)オフィス用品のグリーン購入を推進します。
- 6)環境方針を全従業員へ周知させるとともに環境教育及び啓発に努めます。

平成28年10月1日
エイム電子株式会社
代表取締役
中山栄志

4.環境目標

項目		H26年度	H27年度		H28年度	H29年度
		実績 (基準値)	目標	実績値	目標	目標
CO2排出量(kg-CO2)		58,957	58,777	61,181	60,649	60,468
前年比削減率(%)		-5.2%	-0.3%	3.8%	-0.9%	-0.3%
二酸化炭素 排出量削減	本社電力(kwh)	50,383	50,131	51,427	50,347	50,095
	前年比削減率(%)	-1.8%	-0.5%	2.1%	-2.1%	-0.5%
	倉庫電力(kwh)	36,277	36,096	36,330	36,148	35,968
	前年比削減率(%)	-14.3%	-0.5%	0.1%	-0.5%	-0.5%
	化石燃料	ガソリン燃費(km/ℓ)	16.94	17.17	19.10	19.29
前年比向上率(%)		-0.4%	1.4%	12.8%	1.0%	1.0%
排水量削減(m ³ /人)		5.24	5.21	4.92	4.90	4.87
前年比削減率(%)		-3.1%	-0.5%	-6.1%	-0.5%	-0.5%
コピー紙購入量削減(kg)		868	864	824	820	816
前年比削減率(%)		-3.1%	-0.5%	-5.1%	-0.5%	-0.5%
一般廃棄物排出量削減(kg)		1,573	1,557	1,869	1,573	1,565
前年比削減率(%)		-3.4%	-1.0%	18.8%	-15.8%	-0.5%
産業廃棄物リサイクル率/ (H28~)産業廃棄物の削減 産業廃棄物の適正管理		100%	100%	100%	適性管理	適正管理
グリーン商品の購入推進(%)		57	65	66	67	68
環境に配慮した製品作り 及び資材の購入		RoHS比率 98.2%	RoHS比率 98.3%	RoHS比率 98.4%	RoHS比率 98.5%	RoHS比率 98.6%
防災対策		実施	防災・災害後 対策強化	実施	防災・災害後 対策強化	防災・災害後 対策強化

※ 化学物質の使用無し。

※ CO2排出係数は東京電力の”二酸化炭素排出係数=0.418”を使用。

※ リサイクル率は重量計測で排出する産業廃棄物で計算します。(99%以上が該当)

※ 産廃の適性管理=産業廃棄物管理票交付、管理及び行政への報告、
産業廃棄物委託契約書の締結、産業廃棄物排出量(リサイクル量)の把握

5.環境活動計画

(1) 二酸化炭素排出量削減

-1 電気使用量削減

- ・クールビズの励行、卓上ファンの配布
- ・クールビズへの取り組みを社内外に告知、奨励
- ・ウォームビズの励行、足温器の配布
- ・長期休暇時の待機電力カット
- ・照明の省エネ化検討
- ・エアコンの定期清掃による効率アップ

-2 ガソリン使用量削減

- ・ハイブリッドカーの使用励行

(2) 排水量削減

- ・節水ポスターの見直し
- ・社内へ節水意識向上の呼びかけ

(3) コピー紙購入量削減

- ・裏紙利用の徹底の継続
- ・社内のペーパーレス化推進の継続

(4) 一般廃棄物排出量削減

- ・一般ゴミの分別の徹底
- ・社内へゴミ削減の呼びかけ
- ・紙類のリサイクル徹底
- ・清掃工場見学による活動チームの知見向上

(5) 産業廃棄物削減

- ・産業廃棄物の適正管理

グリーン購入比率向上

- ### (6)
- ・事務用品購入申請書にグリーン商品確認欄を追加
 - ・定期購入品のリストを作成し、グリーン対応化を進める。

環境に配慮した製品作りと資材の購入

- ### (7)
- ・当社で選択しうる部材、製品についてはRoHS対応する
 - ・RoHS非対応、不明在庫品については対応品への入替を進める

(8) 防災対策への取り組み

- ・防災用品の点検、補充
- ・避難訓練の実施、及び強化
- ・災害時の防寒用品補充

以上

6. 環境目標の実績

今年度の環境保全活動が終了し、社長と環境管理責任者が環境への取組結果の評価を行った。評価結果は次の通りである。

No.	推進項目	単位	責任者	年度目標	年度実績	評価
1	二酸化炭素排出量削減	kgCO2	松島	58,777	61,181	×
1-①	二酸化炭素排出量削減 本社電力	kwh	野村	50,131	51,427	×
1-②	二酸化炭素排出量削減 倉庫電力	kwh	野村	36,096	36,330	×
1-③	二酸化炭素排出量削減 ガソリン燃費	km/ℓ	野村	17.17	19.10	◎
2	排水量削減	m3/人	野村	5.21	4.92	◎
3	コピー紙購入量削減	kg	松島	864	824	◎
4	一般廃棄物排出量削減	kg	小池	1,557	1,869	×
5	産業廃棄物の適性管理推進		小池	リサイクル100%	リサイクル100%	○
6	グリーン商品の購入推進	%	元木	65	66	○
7	環境に配慮した製品作り		松島	RoHS比率 98.3%	RoHS比率 98.4%	○
8	防災対策		伊関	防災・災害後 対策強化	実施	○

※ △=削減したが、目標には達せず

※1 数値目標の無いガソリン、LPGのCO2排出量は前年度並みとして年度目標を計算

7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

①最終月前の8月度までは前年以上の節電実績を達成していましたが、最終月の9月度が残暑の影響で蒸し暑く、エアコンをフル稼働させたため電力使用量が跳ね上がってしまい、節電目標は達成できませんでした。

●本社2F照明の省エネ化、ソーラー発電等の導入等で更なる省エネを図ります。

ハイブリッドカーの使用比率が41%→50%に上がったことにより、営業車の燃費向上は大きく向上し、目的を達成することが出来ました。イベント等で走行量が増加したため、使用量は+8.2%となりました。

●引き続き、荷物非積載時は低燃費車の使用を励行し、燃費の改善を図ります。

②特に設備投資等は無かったが、節水意識が社内に浸透したことにより、前年に続き、過去最少の水道使用量記録を更新した。

●生活用水のみの為、今後大きな節水は望めない。

引き続き、節水意識の浸透を図ることで使用量が増加しない様に務めたい。

③売上はほぼ前期並みであったが、目標を超える3.1%の削減を達成した。書類のペーパーレス化、裏紙の使用徹底などの取り組み成果が出ました。

●引き続き、ペーパーレス化、裏紙の使用徹底などを推進します。

④5S活動の推進により大幅に廃棄品が増えたため、一般廃棄物は300kg増加してしまい、+18%となり、目標を達成出来ませんでした。

●一時的なものであるため、次年度は前年度の目標値をキープします。

⑤当社の産業廃棄物は再生可能品は総て分別し、リサイクルしております。再生不能な産廃物も大幅に削減し、過去最小値にする事が出来ました。

●今後も分別の徹底を続けます。

⑥グリーン購入チームを立ち上げ、使用量の多い部門の実情をリサーチし、ポイントを絞って対応した結果、目標値を達成することが出来ました。

●チーム活動は今季限りとし、次期からは従来通り経理所管とします。

⑦非対応品の一部を廃棄し、在庫の98.4%がRoHS対応となりました。

●前期同様、新製品のRoHS対応を進めてまいります。

⑧防災活動としてはシェイクアウト訓練を継続して実施しております。身を守る行動を習慣化することにより地震被害を極力減らします。

防災グッズの充実や非常食の点検・入替、冬場対策等も実施した。

●災害時の対応について更に検討を進めていきます。

⑨代表者の前期指摘事項に対する取組について

1)本社2F照明の省エネ化について

LED照明の導入の準備を進めていたが、都合により次期に延期となった。

2)ソーラー発電の導入について

以前、ソーラー発電導入について検討した際は設備が重過ぎて現実的では無かったが、軽量化されたことにより屋根に乘せることが可能となっていた。来期は省エネ助成金を利用して、停電時に非常用電源として最小限、業務を行うことが出来る発電設備の導入を検討したい。

3)帰宅困難者の冬場対策

アルミシートを55枚購入。物流センターには寝袋を5人分用意した。

8.環境関連法規制の遵守状況

内 容	過去3年から現在までの結果
遵守状況の確認 及び評価結果 法律違反の有無	2016年10月25日 環境関連法規等の取りまとめ一覧をもとに遵守状況をチェックした結果、報告遅れが1件ありましたが、その他では取り決められたことが確実に守られていました。また、違反は、ありませんでした。
訴訟の有無	なし

9.代表者による評価と見直し(未更新)

環境活動も6期目を迎え、数値目標の達成は分野によっては厳しくなりつつあるが、経営理念にある「地球環境と社会に貢献」を実現するため、継続して取り組んで欲しい。省エネ活動によるコスト削減効果も大きい点も評価したい。設備投資資金は回収出来る見込みであり、今後も積極的に設備投資を行っていきたい。

電気使用量が増加してしまったが、体調を崩すスタッフが出るなど今夏は暑さが厳しかった。エアコン使用による電力使用量の増加はやむを得ない。適切な職場環境を維持しつつ省エネには最大限取り組んで欲しい。水道使用量過去最少、営業車の燃費向上、コピー紙購入量の大幅削減など成果は小さくない。引き続き、全社的な取り組みを推進して欲しい。

取り組みの成果が着実に出ていることから、環境方針・環境目標・環境活動計画および環境経営システムについて変更の必要性はないものと判断する。

2016年11月17日
エイム電子株式会社
代表取締役 中山栄志